



元旦、もちつきで初笑い

愛の手を

バプテスト心身障害児(者)を守る会

第202号

発行責任者
社会福祉法人 バプテスト心身
障害児(者)を守る会
重症心身障害施設 久山療育園
重症児者医療療育センター
理事長 宮崎信義
編集責任者 中村晴光
福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
☎(092)976-2281
FAX (092)976-2172

「新年のご挨拶」

理事長 宮崎信義

2021年を迎えて、「重症心身障害児(者)」と共に「在る皆様にご挨拶申し上げます。昨年から1年

間以上にわたって新型コロナウイルスの感染蔓延の脅威にさらされています。生命の危機だけではなく、人と人が隔てられ、仕事を奪われ生活が脅かされるという、100年前の新型インフルエンザ感染にも匹敵するような危機の時です。いつも年の初めには新しい希望に思いをはせたいと願っています。重症心身障害児(者)やご家族、職員、ボランティアの方々の生命が守られるように祈りから始めたいと思います。

このような時こそ、久山療育園の設立基盤であり、私たちが現場で読み続けている聖書に立ち帰りたいと思います。「愛の手を」の新年号では先ず、「新しい命に生かされる」「新生」ということを起点にしつつご挨拶申し上げます。

新しい命に生かされて

ヨハネによる福音書3章4節で、議員であり有識者でもあったニコデモが「年をとった者が、どうして生まれることができるでしょうか。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか。」とイエス様に問いました。有力者であった者が、当時は貧しい大工の子で権力者の側から見れば好ましくない人物とも思われていたイエス様に会いたいために、夜にこっそりと訪ねたのです。聖書には、

何人かそのような有力者が描かれています。体制側から見れば不利な立場になるかも知れない、それでもこの方や語られる言葉や癒しの業が真実に思われて気になつて仕方が無い、会わずにはいられない。ニコデモのような人は、臆病なようでもとても勇気を持った人だと思っています。

ニコデモの問いに対して、イエス様は、「はつきり言うておく。だれでも水と霊とによつて生まれなければ、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたがたに言ったことに、驚いてはならない。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」と答えられました。

私たちは、「新生」とは、キリストと結びつくことであり、キリストのよみがえりの命に生かされることだと信じています。ペトロの手紙一の1章23節では、「あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることのない生きた言葉によつて新たに生まれたのです。」と書かれています。人間存在は、「草は枯れ、花はしぼむ。この民は草に等しい」と、イザヤ書40章7節にあるように有限な存在です。しかし、人がいかにはないものでも主の言葉は永遠に残り、その

(次ページに続く)

はかない存在にも新生をもたらす福音として働いてくださることが示されています。

詩篇139篇13、14節には「あなたは、わたしの内臓を造り母の胎内にわたしを組み立ててくださった。わたしはあなたに感謝をささげる。わたしは恐ろしい力によって驚くべきものに造り上げられている。御業がどんなに驚くべきものかわたしの魂はよく知っている。あなたはわが内臓をつくり、わが母の胎内でわたしを組み立てられました。わたしはあなたをほめたたえます。あなたは恐るべく、くすしき方だからです。あなたのみわざはくすしく、あなたは最もよくわたしを知っておられます。」と謳われています。新しい年、このような讃美をもつて、今日の御言葉を受けることが出来たら幸いだと思っています。

2021年という年が、重症心身障害児(者)や私たちの「生命の尊厳」とかけがえの無さが立証され、共に手を携えて、新型コロナウイルスの感染が終息する年となりますように祈りかつ尽力して参りたいと思います。

理念と展望

「2021年の事業計画と展望」

理事長 宮崎信義

2020年11月27日の第3回理事会に2021年度に向けての事業計画の骨子を上程致しました。巻頭言でもお示しましたが、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症によって諸事業と具体的な計画が制限されている中で、設立理念の継承と実践や公益法人としての役割を果たしていくことは継続していかねばなりません。そこで2021年度の年間主題として「新しい重症児(者)医療福祉計画の継続」、開園祭テーマは「重症児(者)と共に集う人々の健康と生活の質の向上」と例年に比べてやや抽象的な表現にならざるを得ませんでした。

事業計画の骨子としては、「社会福祉法一部改正」(2016年度施行)に対する整合性を保持するために、①施設運営の確立・強化と地域連携、行政も優遇税制を受ける公益法人の資格審査にガバナンス(統治性)と組織の明確化が求められています。具体的には、厚生労働省から通達

「社会福祉充実残額」とは、①活用可能な財産②事業に活用している不動産等③再取得に必要な財産④必要な運営資金から成るものです。当センターでは、既に2017年度から着手され、2021年度に向けて総額6億円近い基金が備えられています。その一部が、事業展開に必須である主事業所及び近隣地域の土地購入に用いられるのです。次に「事業運営の透明性の向上」として、会計の明確化と外部監査制度の順守が挙げられます。運営上の課題と持続可能性については、「在宅支援センター」の運営費(グループホームが主体)は年間約3,230万円の赤字ですが、赤字分は「公益法人の社会還元」と全国の支援者の献金に支えられています。

現状に合致した収支計画の策定として、重症心身障害施設における基準を満たし、職員の処遇が整備され、安心して働ける状態での人件費率は75〜77%が妥当と考えられます。

一方で公益法人として守られています。新型コロナウイルス感染症のパンデミックに伴う事業収入減が無視できない状況になっています。具体的には、短期入所事業の制限、通所枠の制限、外来(訪問リハビリなど)利用者の減少等が挙げられます

まとめに代えて
設立理念の構成要素でもある、①重症心身障害児(者)の生命の尊厳と人権の尊重、生活の質の保持、②社会福祉事業への再投下、「在宅支援センター」の充実と地域ニーズへの対応。高齢化する重症心身障害者及び家族の支援など、将来的な視野をしっかりと保持していきたいと考えています。



人のからだと病気 第6回

「老化を表わすことば

サルコペニア、フレイル、そして

ロコモ咳—その知られざる正体

センター長／理事 岩 永 知 秋

■はじめに

横文字がそのままカタカナ日本語として幅を利かせてきたのは、さていつ頃からでしょうか。今回のコロナ感染症

一般の方にまでそれを強要するのは少々やりすぎの感があります。

いろいろな外来語の悪口を書きましたが、今回は、申し訳ないことにそのカタカナ語が主役です。「欧米か」と漫画コンビから頭をはたかれそうです。サルコペニア、フレイル、ロコモですが、いずれも「老化に伴う心身の衰え」を意味する言葉です。

■「健康寿命」を考える

「健康寿命」ということは、お聞きになったことがあるかもしれません。「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されます。「生物学的な寿命は、人が生まれてから死ぬまでの期間ですが、死亡そのものもさることながら、もう一つの問題は寿命が尽きる前にあります。高齢になると自力では日常生活を送ることがむずかしくなり、やがて介護の手が必要となることがあり

ます。介護を受ける必要がなく自力で生活を営むことができるまでの期間が「健康寿命」で、2000年にWHO（世界保健機関）が提唱した概念です。ここでは単に寿命を延ばすだけでなく、いかに健康である期間を延ばすかに焦点が当てられています。平均寿命と健康寿命との差は、日常生活に制限のある「健康でない期間」を意味します。2016年のデータでは、この差は男性が8.84年、女性が12.35年でした。同じく2016年のデータで福岡県の男性の健康寿命は71.49歳で全国で第40位、女性性は74.66歳で全国第30位でした。いずれも日本の中で下位にあり、とくに男性はそれが顕著です。日本の高齢化は世界でも顕著ですが、できるだけ「健康を保ちながら老いる」ことが万人の願いでしょう。そこで問題になるのが今回の話題です。

■サルコペニアとは

「全身の筋肉の量と筋力が減少し、体の働きが衰えるために、ふだんの生活に支障をきたすこと」を言います。「サルコ」は筋肉のことで、「ペニア」は減少することを意味します。これはどちらかといえば、老

化をリハビリや栄養の観点からとらえたもの、といえます。ふくらはぎの太さを指で調べる「指輪つかテスト」で簡単に調べることが出来ます。ふくらはぎの最も太い部分を両手の人差し指と親指で囲み、すり間ができるようなら要注意です。運動療法や栄養療法などが重要です。

■フレイルとは

老衰などと昔は言っていたのですが、老化に伴って心身の働きが少しずつ低下しつつある段階がフレイルです。つまり、「健康な状態と、「要介護」状態との中間の状態」と考えていただければ結構です。昔シエークスピアは、著作ハムレットの中で「弱き者、汝の名はおんな」という名ぜりふを残しましたが、この「弱き」が「フレイル(Frail)」の訳なのです。この言葉は、日本老年医学会が提唱したこと

からわかるように、老化を内科的な視点から見たものでしょう。筋力のほか体重、疲労度、活動度などを総合的に判定します。

■ロコモとは

からだの衰えを、「立つ、歩くなどの移動する能力が低下

した状態」としてとらえたのが、ロコモティブ・シンドローム（シンドロームは症候群、つまり症状の集まり）です。略して「ロコモ」といいます。ロコモティブには機関車の意味もあります。昔、「ロコモーション」というアメリカの歌がありました。伊東ゆかりさんが日本語の歌詞でうたう「ダンス」の歌でした。老化を移動能力の観点から見たもので、これは整形外科的な見方ですね。片足立ちで靴下を履けない、階段を上るのに手すりが必要などが具体的なロコモです。

■健康に年を取ろう

サルコペニア、フレイル、ロコモは、いわば「三位一体の老化」です。これまで述べたことからわかるように、これらの言葉は老化の過程をいろいろな面からとらえたもので、すね。筋力の低下や運動機能の低下といった重なる部分も多いのです。しかし、いずれにしても健康寿命を延伸させるためには、この3つを三位一体として予防し、あるいは早い段階で阻止し、あるいは進行を遅くすることが必要になります。いまだ老化を防ぐのに有効な薬がない現状では、栄養（食物）と運動、そして社

会参加の3つが重要な位置を占めています。これらが老化を遅くするのかわかきませんが、これらの可能性を追求していく価値はあります。

■栄養が大切

栄養はまず第一に食事です。たんぱく質を十分とり、バランスの良いメニューで、水分も適切に取りましょう。魚、大豆食品、野菜、果物を中心に、多様な食品をとる日本型の食事パターンを取る人ほど、サルコペニアになるリスクが低いと報告されています。また、栄養をきちんと取るために必要なことは、かむ力を維持することです。これが衰えると「オーラルフレイル」と呼ばれる、口の老化の状態となります。虫歯の手当てなど必要な歯科治療とともに、口の中をきれいにする口腔ケア、すなわち歯や舌のブラッシングなどが重要です。また、口の中の衛生が保たれないと、口内に入っている細菌が気管支や肺内に入ることにより、誤嚥性肺炎の原因となります。

■適度の運動を習慣にしよう

運動は、歩行を中心とした持続的な運動と、筋力を保つ

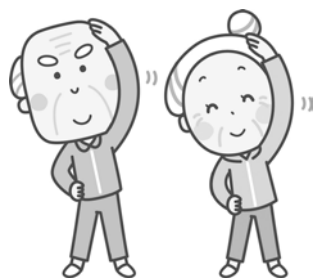
ための筋肉トレーニングから成ります。無理はせず、長続きするような運動を選びましょう。継続は力なりですので、息の長いものにしていきましょう。座ったりじっとしている時間を減らし、足腰、手先や頭を使い、毎日の生活を活動的なものにしていきます。

■社会とのかかわりが大切

社会参加は老後を楽しむ、また若さを保つためにポイントとなります。趣味や余暇の活動、ボランティア活動など、意識的に人と交わることで、またお出かけの機会を増やしましょう。孤立や孤独は社会的フレイルとも呼ばれ、心身の衰えにつながります。地域の中で、また趣味や娯楽での人とおつきあひによって、人生を楽しむ姿勢が力ギとなります。この活動性はどうも女性よりも男性が苦手のように思えますので、私を含めて特に男性は意識して積極的に取り組んでいきたいものです。最近の研究では身体活動そのものよりも、文化活動、地域活動をしている人のほうがフレイルになりにくいことも報告されていますし、栄養、運動、社会活動は、認知症の予防の観点からも重要です。

■終わりに

私の両親は7年前と6年前に相次いで亡くなりました。最後は二人とも施設にお世話になりましたが、親たちの老後や死を間近にみると、死の方はおちろんのこと、どのようにならなくていいのかわからない自分では選べないものだとつくづく実感しました。



—ロジテム九州さん今年もありがとうございます—



例年、貴重な医療機器購入のための献金をくださっている株式会社ロジテム九州さんのご厚意により、今年は新型コロナ・ウイルスの社会情勢を反映して、利用者の方、職員、保護者などの来園者皆さんの感染対策に役立つように「足踏み除菌スタンド」4台を購入させていただきました。

昨年は社員の皆さんから頂いた貴重なご寄付による献金でポータブル SPO₂ モニターが備わりましたが、今年も久山療育園の関係者すべての健康を守るための、貴重な機器を複数購入することができました。心から感謝いたします。

(看護部長 吉本法生／広報出版委員会 馬原哲治)



第51回 公開講座について

研修研究委員会委員長／めぐみ棟看護師長 藤島 信也

2020年11月18日に第51回公開講座を開催しました。公開講座は「重症心身障害児者のターミナルケア」～人生最後の「その人らしき」をサポートする～というテーマで社会福祉法人愛徳福祉会、大阪発達総合療育センター、センター長、フェニックス園長の船戸正久先生に講演して頂きました。



今年度はコロナ禍で公開講座を例年と同様に開催する事は難しく、どのような形にするのかを委員会で検討しました。その結果、午後から講演を開始し、例年のシンポジウムは中止する事にしました。しかし「講師は遠方より来ることは可能か」「他施設は本当に参加できるか」「会場内の感染対策は」など様々な課題が残りました。様々な課題は各担当者が調整していき、公開講座当日を迎えスムーズに終える事ができました。他施設からは31名の方々の参加がありました。

前年度に比べると参加者が少なかったのですが、このような状況でも31名の方々の参加があった事は当センターで開催する公開講座に他施設の方達がどれだけ注目しているか改めて考えさせられました。

講演の前半は本人・家族の意思決定・自己決定を題材にした映画の紹介から始まり、本人の人権と尊厳が守られる

事がいかに重要か話されました。重症心身障害児者における意思決定・最善の利益を「この子らを世の光に」や「本人さんはどう思うてはるんやろ」という本から本人を支援の中心におく事が意思決定・最善の利益につながると紹介されました。その他にも尊厳死や自然死の容認を考える記事の紹介や本人意思を尊重するための方法としてAD(事前指示)・ACP(事前ケアプラン)の紹介がありました。後半は医療型障害児者入所施設における現状として近畿地区重症心身障害児施設の終末期における看取りの実態についてのアンケート結果や大阪発達総合療育センターでの終末期の関りの事例、ACPを作成した事例の紹介がありました。講演後の質疑応答ではACPについての質問や終末期の具体的な支援の質問など多くの質問があり活発な質疑応答でした。

今回の講演を終えて重症心身障害児者のターミナルケアについて利用者本人の意思や最善の利益を考えるには、どれだけ組織的・計画的に、AD・ACPを準備できるかが重要だと感じました。

重症心身障害児者は意思疎通が難しい為、ご家族が意思決定する場合が多いと考えます。難しい判断なので、ご家族の中には決定できない場合もあるし、決定した事を変更したい場合もあります。また判断できず医療従事者に委ねられる場合もあります。そのためご家族とは何度も話し合う必要があります。話し合いの場をどのように作り、だれが出席するか、事前に何か話し合う必要はないか、など事前に計画する事で納得できる話し合いができるのではないかと考えます。またAD・ACPがある事で支援に関わる人達が共通して指示やケア計画を見ることができ、同じ方向性で支援できます。今回の講演では事例の紹介で実践する方法や計画が明確に紹介されていたので、参考にさせて頂きたいと思います。利用者の人生最期を考える事は辛い事です。だからといって、ご家族と話し合うタイミ

ングを逃す事で、利用者本人の意思について十分に考えられない事や考える時間を与えないまま、つらい判断をご家族に迫る事になるかもしれない。人生の終わりに「その人らしき」をサポートするためには、多職種が協働しご家族と十分に話し合う事が何よりも重要です。もし利用者のターミナルケアを考える時が来たら、今回の公開講座で学んだ事を取り入れ適切なタイミングで組織的に計画し準備し、ご家族、利用者本人が満足できる日々を支援していきたいと思えます。





新入職員の皆さん

2020年度はコロナ禍にあっても
春以降に新しい仲間6名を
お迎えしました。
感謝とともにご紹介します。



①中野和彦

(看護師／ひかり棟)

- ②利用者の方が心穏やかに生活できるよう関わり、援助して行きたいです。
- ③長所…気が長い方
- 短所…マイペースなところ
- ④利用者、家族の方々の気持ちに寄り添う看護を提供できるよう関わりたい。



①能登原充幹

(看護師／めぐみ棟)

- ②安全で丁寧な看護ケアの提供ができるよう頑張ります。
- ③長所…穏やかなところ。
- 短所…緊張しやすいところ
- ④利用者さんや家族の方と信頼関係を築きながら、安心して生活できるよう援助していきたいです。

- ①名前・職名・部門配置
- ②久山療育園で働くことについての抱負
- ③長所・短所
- ④利用者の方や家族とどのように関わりたいですか？



①永藤七巳子

(療育員／通所)

- ②利用者さんの毎日がより良いものとなるように頑張ります。
- ③長所…人見知りしないところ。
- 短所…気づきが遅いところ。
- ④在宅生活でのQOLが向上するよう楽しい療育活動、丁寧な生活介護を提供し、信頼関係を築いていきたいです。



①富田裕規

(介護福祉士／めぐみ棟)

- ②利用者さんがより良い生活ができるようにがんばります。
- ③長所…優しい性格
- 短所…マイペースに行動する
- ④利用者さんが笑顔で過ごせるように声掛けを行いながら関わっていききたいです。



①福原知弥

(SE／事務部)

- ②システムトラブルなどを解決し、利用者さんやご家族に迷惑をおかけしないように頑張ります。
- ③長所…優しい、料理が得意
- 短所…集中力がでないこと
- ④利用者さんやご家族の方に安心してもらえるように明るく笑顔で接したいです。



①小倉潤二

(調理師／診療部栄養課)

- ②とにかく早く慣れて職場の役に立てるように努めます。
- ③長所…よく体を動かします。
- 短所…あわてんぼうで失敗します。
- ④食事を通して健康のために取り組みたいです。



2020年の久山療育園クリスマス

新型コロナウイルス・ウイルス感染に揺れる社会事情は、今年の久山療育園クリスマスにも影響を与えました。

例年は来場される多くの教員やボランティアの方々とクリスマスをお祝いするため、11月になると有志職員で

聖歌隊が組織され、地域交流ホールからは指導や演奏の先生方とともに練習に励む歌声が聴こえてきますが、今年は10月に開催されたクリスマス委員会で、感染防止対策を最優先する観点から聖歌隊の編成と燭火礼拝(キャンドルサービス)を中止することが決定されました。

更に、12月17日の久山療育園クリスマスの一週間前に開催された臨時感染対策委員会の決定により更なる感染防止対策強化の一環として、20名近くのクリスマス礼拝参加希望ボランティアの方々の出席をお断りしなければならませんでした。

たいへん残念でしたが、ボランティアの皆様には重症児施設の感染対策の重要性をご理解いただき感謝でした。

しかし、クリスマス礼拝当日は讃美歌と聖書朗読でイエス様のご降誕が表され、宮崎理事長と岩永センター長よ

りクリスマスメッセージが伝えられ、今年相次ぐ園内の行事やイベントの中止や縮小によって、いわゆる「久山らしさ」を感じる機会が減った今年の新人職員を中心に、保護者会役員、理事・監事の皆様と共にクリスマスのお祝いをするのできました。

例年ならば礼拝後は、音楽や軽食を楽しむ祝会が持たれますが、当然今年はそれも中止となりました。

毎年の開催後には出席者の方々と、次の年にも健康で再会することを強く思いますが、今年は特にその思いを強くしました。2021年のクリスマスでは多くの方々と、叶うならばマスクを外した大きな笑顔でお会いできることを願っております。

(法人事務局担当課長 馬原哲治)



44年のあしあと



「1982年のクリスマス」

現在の法人事務局には、「1982年」と題された1冊のアルバムが保管されています。おそらく川野直人初代理事長が所有されていたものと思われます。

そのアルバムにはクリスマスの模様が撮影された、色鮮やかなカラー写真のページがありました。

ラベルには「1982・12・15 園児クリスマス」と記載されています。

コロナ禍の2020年のクリスマスとは違って、幼かった入所者の皆さんが、お母様や看護師さんの膝に抱かれて、牧師先生の話を聞く様子がわかります。

この模様を伝える「愛の手を」第40号(1983年2月1日号)の12ページには、『ちよつとよそいきの服を着て、お母さんのひざに抱かれて、シオン山バプテスト教会の今村幸文牧師先生のお話を聞きました』との記載がみられます。『...ぼくは久しぶりにお母さんのやさしい歌声を聞いた...お母さんしかつけないやさしいハーモニイがぼくを励ましてくれる。』と綴られた文章に、しっかりと身を寄せるクリスマスの温かさが詰まっている気がしました。(法人事務局 馬原哲治)



通所で頑張っています

図書活動を楽しみました

通所では活動の中で年に2回程、利用者の方とじっくり、ゆったり本を読む機会を設けています。

気候の良い時には園庭やベランダで「あおぞら図書館」。または交流ホールや通所の一角を図書スペースとしてセッティング。

1対1での読み聞かせで一氣に絵本の世界へ・・・

職員にとっても図書活動での利用者の方との触れ合いの時間は大変貴重なものとなっています。さて、今日はどんなお話が聞けるかな？

(通所保育士 汐田美賀)



☆2020年の通所クリスマス☆

今年度はいつも通りのクリスマスを迎えることができませんでしたが、少しでも皆さんと一緒にクリスマスをお祝いできますように・・・通所各所をクリスマスー色に彩りました。



玄関のトトロたちも・・・



渡り廊下はステンドグラス調に仕上げました



みんなの手形も大変身！



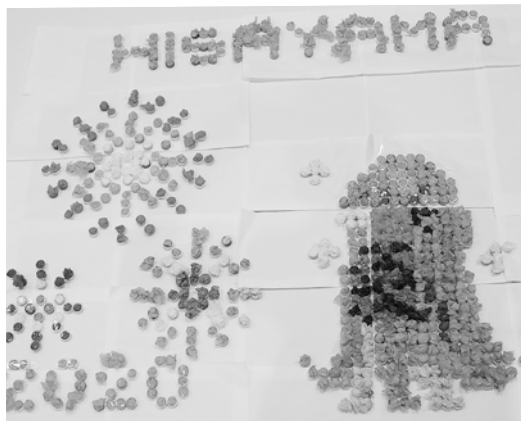
めぐみ棟より

モザイクアート

秋祭りのゲームコーナーの一角にあった「モザイクアート」。答え合わせは完成してから・・・とお伝えしていましたが、残念ながら秋祭り期間には半分ほどしか埋まらず。しかし、ようやく完成することができましたのでここでお披露目です。全部で600を超えるペットボトルのキャップに、秋祭り後も日々の活動の時間にコッコツと花紙を詰めて、2020年を象徴するモザイクアートが出来上がりました。

『アマビエ』と、夜空に大きく打ちあがった『花火』です！

今年は予想だにしなかったウイルスとの戦いに、誰もが胸を締め付けられる思いをしたことでしょう。この未知なる疫病を鎮めようとネット上で話題になったのが「アマビエ」です。



エ」です。このアマビエは、江戸時代末期の熊本に出現したとされる妖怪で、「病が流行した時には、対策として自分の姿を描いて人々に見せるように」と言った、とされています。多くの人が思い思いのアマビエを描き終息を願った2020年、私たちもその思いに力を添えたとい、このアマビエをデザインすることになりました。

これからも終わりの見えない戦いが続きそうです。しかし、当センターでも皆で明るく、楽しく過ごしながら心を一つに、ウイルスに負けない姿を見せてやろうではありませんか。世界中に、一日でも早く安心できる日が戻ってきますように。大切な願いを込めたモザイクアート「アマビエ」の完成した姿、皆さんもぜひご覧くださいね。

(めぐみ棟保育士 河野敦美)



クリスマス会

年末の大きな行事、「クリスマス会」が12月16日に今年も行われました。残念ながら病棟毎の開催となりましたが、棟内は利用者の作った手のひらサイズのクリスマスツリーや、利用者と職員が一緒に飾り付けた大きなクリスマスツリーが輝き、とても綺麗でした。

朝から病棟内ではクリスマスソングが流れ気分も盛り上がる中、一部の礼拝が終わりキャンドルサービスを行いました。利用者を代表して三名の方と一緒に火を灯し、ほのかに揺れる明かりに照らされ、利用者のあたたかな笑顔を見ることができました。

昼食時には豪華な食事とケーキが用意され、利用者のテンションもアップ！どのケーキが食べたいか尋ね、お目当てのケーキを前に嬉しそうな表情をされていました。



午後からの二部は、利用者の皆さんと楽しく盛り上がる時間が用意されており、私はジェスチャーゲームとダンスを愉快な動物(の格好をした職員)たちと共に披露しました。また、ピアノとフルートによる今年流行りのあのアニメの曲やクリスマスソングの演奏があり、利用者はうっとりとした聖なる夜の時間を楽しまれているようでした。

今回、クリスマス会に初めて参加させていただきましたが、利用者の笑顔を多く見ることができ、私にとっても素敵な思い出となりました。

(めぐみ棟介護福祉士 富田裕規)



ひかり棟より

新スタイルの秋祭り

「運動会」「開園祭」と園の行事が中止になっていく中、病棟で「秋祭り」を実施することができました。いつもでしたら、園内を丸ごと使って実施するようなイベントですが、今年は「密」を避けるために新しいスタイルに挑戦。会場は交流ホールのみ。しかし、その空間が利用者の皆さんにとって別世界になるように気合を入れて装飾しました。

今年の秋祭りのテーマは「久山の祭典2020」。ソフトバンクホークスの「鷹の祭典」のオマージュです。今年の鷹の祭典のテーマカラーは「S15（サアイコー）イエロー2020」。人々を元気づけ、より前向きに世の中を明るくしていきたいという強い決意が込められているようで



す。交流ホールもそのテーマカラーのS15イエローと、ユニホームに使われている青、白の3色で盛大に飾り付けました。そして、選手たちの巨大ポスター、野球やホークスに関連付けたゲームを用意して、いざ「久山の祭典2020」開催です。

めぐみ棟ひかり棟別々の日程、少人数グループでの実施、1グループの少ない持ち時間。今まで通りの秋祭りに比べたら少し物足りないけど、利用者の皆さんスタッフの皆さんの楽しそうな笑顔をたくさん見ることができてとても嬉しかったです。

これからも、皆さんの素敵な思い出を作っていけるように頑張ります！（ひかり棟保育士 佐藤有似子）

クリスマス会

12月16日にひかり棟では少し早めのクリスマス会を行いました。いつもだったら交流ホールで、めぐみ棟と一緒にいきますが、今年は各病棟での開催でした。

デイルームで式典をした後は、クリスマスランチ！皆さん大好きなケーキ、ジュースを職員と選んで昼食を楽しんでいました。もちろん一番人気はショートケーキです★お口いっぱいケーキを頬張っておいしそうに食べていました。

昼食後はデイルームでひかり棟職員によるクリスマスステージ！職員と利用者がなごりくる芸人やアイドル、劇団などを見て楽しい時間を過ごしました。私も初のクリスマス会でこのステージに参加し、同期の仲間たちだけでオリジナルの劇を行うことになりとても緊張しました。しかし、利用者と職員の皆さんが楽しそうに笑ってくれていたのもこちらも楽しく演じることができました。

ステージの最後にはなんとサンタさんとトナカイさんがプレゼントを持って登場！利用者と職員の皆さんが一緒になって楽しいクリスマス会を過ごしました。

（ひかり棟介護士 川邊以都美）



福岡特別支援学校小学部3年・秋の遠足

12月4日特別支援学校の木原先生と一緒に遠足に行きました。久山療育園の園庭と高橋池(通称・カモ池)に行きました。＼みつけてーゲームをしながら園庭から高橋池の方まで散策しながら進みました。園庭では黄色の葉っぱ(イチヨウ)やギザギザの葉っぱを見つけて、実際に触って楽しみました。先生にがんばったねシールを張ってもらおうと、とっても喜んでいました。横断歩道を渡るときも学校に行っていたときにやっていた、ボタン押しと手を挙げてわたるところを先生に見てもらい、笑顔いっぱいにもいつもより高く手を挙げて横断歩道を渡っていました。高橋池ではベンチで休憩し遠足のお楽しみのおやつを先生と一緒に食べました。侑剛さんはチョコパイとスナック菓子を食べました。外で食べるというもののおやつも一層おいしかったみたいです。空を見上げて雲を見つめ、池の周りではススキと大きな木を見つめ、がんばったねシールを張ってもらい大喜びでした。というより、自慢気な表情を見せていました。

学校に通学できない日々を過ごしていますが、ZOOMでの授業や先生とのマンツーマンの授業を受けながら、遠足に行くこともできました。今度は、同級生みんなと遠足に行けることを楽しみに待っています。

(ひかり棟サービスマン管理責任者 古賀クミ)



ZOOMでの授業



重症者ホームひさやまより

サンドイッチ&ハロウィンパーティー

重症者ホームでは、10月17日にサンドイッチ&ハロウィンパーティーを行いました。当日は残念ながら保護者の参加はできませんでしたが、久しぶりの行事に入居者の皆さん楽しみました。

ご飯の後はデザート！ハロウィンのお菓子を壁に貼っていたのでそれを剥がす所からスタートです。どのお菓子をしようかなと選びながら剥がしました。綿菓子にしようか、クッキーにしようか、チョコレートにしようか、自分の好きなお菓子を見つけてこれ！と指さしてアピールをされていました。お菓子とジュースを食べて満足した後はみんなで記念撮影をして行事は終了しました。たくさん笑

イッチなだけあってパンがフワフワで大きな口を開けて美味しく口に食べられていました。ご飯の後はデザート！ハロウィンのお菓子を壁に貼っていたのでそれを剥がす所からスタートです。どのお菓子をしようかなと選びながら剥がしました。綿菓子にしようか、クッキーにしようか、チョコレートにしようか、自分の好きなお菓子を見つけてこれ！と指さしてアピールをされていました。お菓子とジュースを食べて満足した後はみんなで記念撮影をして行事は終了しました。たくさん笑

顔をみることができ、入居者の皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。

(重症者ホーム

介護福祉士 前田宏美)





藤田 英彦

「私たちは、見えるものだけでなく、見えないものに目を注ぐ。」(コリント人への第二の手紙4章18節)

世界中を不安に陥れ、日本でも昨年8月以来の第3波襲来で12月に入り、感染者15万人、死者は2千人を超えるようになった。『朝日新聞』12月1日の朝刊オピニオン&フォーラム「いま考える『死』とは」のインタビュー記事「コロナ患者の最後、さよなら言えずに、家族に残る喪失感」と題して「年間150万人以上が死ぬと予測される『多死社会』を前に日本は新型コロナという予期せぬ災禍に襲われた。

私たちは今、死の意味が

変わりつつある時代の中にいるのだろうか。「事故や災害、病気などによる人間の生死の問題を60年も現場から描き続けてきたノンフィクション作家柳田邦夫さんに聞く」記事が掲載された。

1989年頃からであるからもう30年以上になるが、私は前任地東京の中目黒の恵泉バプテスト教会牧師であった頃、教会員であった当時の国立がんセンター名誉総長石川七郎博士夫妻と、お二人の親友、聖路加病院長日野原重明博士と組んで、ターミナルケア運動としてのホスピス・ピースハウス建設に取り組んだことがある。お二人のDr.は医師として、石川美代子夫人はボランティアとして、私はキリスト教会の牧師として、ある時は遠く湘南辺りまで相応しい病院を訪ねて車を走らせたことがあるが、その中で、Dr.日野原がしみじみと「ホスピス運動はキリスト教だから進めやすいのですよ。神道は『死』を汚れるというし、仏教では『死後』は無に帰すると言う。ところが、キリスト教は『永遠の命』を語ります」と言う信仰を語るから

ね」と仰ったことが今も私の耳に残っている。

またDr.石川が国立がんセンターの院長になられた時、招かれて確かこちらではRKBにあたる系列だったと思うが、ラジオで石川博士と対談したことがある。その頃は教会員を牧師が病院に見舞いに行っても患者の家族以外は絶対と言つてよいほど面会は許されなかった。そこで、若輩の牧師は生意気にも「昔は、黒い衣を着たもの(僧侶、神父や宗教者)が人間の生死を扱っていました。然し昨今は白い衣を着た人達(医療関係者)が権威を持つている。牧師は平安と終末のお祈りをしたいのですが」と訴えたところ石川博士は大きく頷いて下さった。その後暫くして色んな病院で医学的にも「患者に生きる希望を与える精神安定療法」が認められるようになった。

ターミナルケアに深い関心を持つ柳田邦夫さんは、石川七郎博士が天に召された際、各方面から寄せられた本に『無影灯のもとに』に文を寄せ(19ページから24ページ)、更に601ページに及ぶ『ガン回廊の炎』を著し石川博士を中心とした国立がんセ

ンターの働きとターミナルケアについて紹介している。柳田邦夫さんは、「タブレットやiPadでは対面と違いますか」の問いに対して「本質的に違います。その場で手を握り、体をさすり、耳元で声を掛ける。ぬくもりが伝われば『心の血流』となつて伝わります」「でも…人間の生死や生きる力は、医学や科学の実証主義でつかみきれものではない」とも言われる。

コロナ禍の蔓延に伴い、政府主導の「ソーシャルディスタンス」が流行語になり、介護施設、老人ホームなどは面会禁止になり、教会も主日礼拝や晩餐式の自粛が続いた。コロナ禍は、隔離と分断を世に齎した。久山療育園はこれまでのところコロナ禍に耐えており、日々克服の努力が続けられている。しかしコロナ禍はフィジカルディスタンスではないだろうか。

専門家の声に慎重に耳を傾けながらも、「ミットレーベン」を掲げる久山療育園や

諸教会は、今こそ「共に生きる希望」を毅然として世に訴えるべきではなからうか。



防災への取り組み

「災害対策訓練報告」

2020年10月15日(木)。今年度も『災害対策訓練』が実施されました。昨年3月に入職した私にとっては、久山療育園での初めての訓練となりました。

今回は長引くコロナ渦の中で、3つの密を避ける為、例年とは違った訓練となりました。具体的には密集・密接を伴う避難訓練は行わないで、その代わりに大規模停電が発生し、ライフラインが停止した状況の中で①迅速な災害対策本部の立ち上げ②医療用電源等の確保③職員への災害一斉メールの送受信状況の確認④事務職員を対象とした災害イマジネーション訓練です。

何れの訓練も有事を想定した際、大切な訓練であることは言うまでもありません。今回はそのなかで、地震を想定した「災害イマジネーション訓練」が私には非常に新鮮でしたので、そのことについて触れながら、私の想いを綴らせて頂きます。

今回の訓練の想定地震(震度6強)が起きた場合、発生しうる被害を想像(イマジネーション)し、被害に対する防災上の疑問や課題を各職員が思い思いにメモに書き出しました。更に、それを事象別に区分けし、時系列に並べ、有事発生の際、各職員が実際に取るべき行動

や、課題を解決する為の具体的な防災対策等を皆で話し合ったのです。

この話し合いは後述の「規程の見直し」等に向けて、とても大事なものとなりました。



また、この訓練の主な狙いとしては「組織としての防災力を高め」、必要な体制を確立することです。そして、災害対策の基本を定めることにあります。そうすることによって計画的な防災体制の整備及び推進を図り、「防災対策規程」を見直して、「BCP(Business Continuity Plan)事業継続計画」マニュアルの策定」に繋げるものとなるのではないのでしょうか。

昨今、地球規模での温暖化の影響とみられる台風や森林火災が多発し、その二次災害も起こっています。また、火の不始末・不審火による火災等の人為災害に加え、今世界中を苦境に陥れている新型コロナウイルス感染症といったパンデミック等、近年、災害は多岐にわたり、常に私たちの生活と隣り合わせにあり、脅威にさらされている状況です。

そういった中、世界における日本の災害状況に目を向けてみると、我が国の国土面積は全世界のたった0.28%しかありませんが、全世界で起こったマグニチュード6以上の地震のうち、約20%が日本で起こっており、日本は世界でも災害の割合が高い国であると言えます。私は内部監査を担当させていただいている関係上、多くの職員の方々とBCPの必要性・あり方について話す機会

があります。そういったこともあり、常々、我々職員の責務として心がけていることは、様々な災害から利用者の方々の健康といのちを守ることにほかなりませんが、設立理念にも「重症児(者)が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域を中心に位置づけられることを願います。」と謳われております。とは言っても、この理念は一方的に成り立つものではなく、今、地域から「何を望まれ」、そして、それに対し「何が出来なのか」真摯に向き合うべき時機が来ているのではないのでしょうか。そんなことを今回の訓練を通して考えさせられました。

(設備管理/法人事務局担当
横溝正生)



たくさんのクリスマスケーキやお菓子を頂きました!

今年は、新型コロナウイルス感染を防ぐ為、入所者、グループホームの方々は、ご家族との面会が制限されたり、様々な行事や活動の制限が続いています。また、通所、短期入所、相談支援等在宅の利用者の方々にとっても、久山療育園での受入れ制限や自宅での自粛によって御不自由な日々を送られている事と思っています。

そんな中、沢山のクリスマスケーキやお菓子を久山療育園に届けて下さった方々がいらつしやいました!色とりどりのケーキは栄養課スタッフが切り分けて、入所、通所、グループホームの皆さんでお菓子と共にいただきました。外出も出来ない中で、楽しいひと時でした。本当にありがとうございます。

(献品をいただいた方々)

職員組合の方々による「山崎製パン従業員組合福岡支部」様、包装機材等を扱われている「福岡丸本(株)」様、施設等への支援事業をされている「西日本新聞民生事業団」様、物流事業をされている「ロジテム九州(株)」様、久山町に本社がある調味料等販売の「くぼらコーポレーション(株)」様、総合スーパーの「イオン九州」様をはじめ多くの方々の温かいお心を感謝いたします。

(事務部担当課長 中根史子)



ミットレーベン・ネットワークからのお知らせ

久山療育園クリスマス礼拝での祈り

ミットレーベン・ネットワーク会長 伊原幹治

2020年度は「ミットレーベン・ネットワーク」の活動にとって厳しい初めての1年となりました。ボランティア団体がボランティアができない状況に置かれたのですから。2月恒例のチャリティコンサートも残念ながら実施できません。1日も早い収束を願うばかりです。

12月17日の久山療育園クリスマスではそんな思いで祈りを捧げました。ここに紹介いたします。

久山療育園をこの地に開いてくださり、そして44年間を導いてくださった主なる神様、2020年も押し迫った今日、久山療育園のクリスマスを共に祝うことができる幸いを感じ申し上げます。

この1年間の私たちは、新型コロナウイルス感染症という未知のウイルスとの戦いの中にありました。そして、それは日本のみならず、全世界において、今も続いています。この間、「三密」が叫ばれ、「ソーシャル・ディスタンス」が要求され、人々は分断され、いっそう孤立化が進みました。その結果、私たちの日常性は大きく制約を受けることになりました。これから冬に向かう今も、収束の見通しは立たず、感染症は猛威を振るい、経済や医療の現場に大きな負担をかけた状態が続いています。

ここ久山療育園においても同様で、「共に生きる」を理念として設立され、社会が重症児者とその家庭を支えるコミュニティを目指してきたにもかかわらず、出入りは制限され、ボランティア活動も久しく停止しています。また、多くの行事やプログラムが中止に追い込まれました。久山療育園は設

立以来、最大の危機にあると言えます。そういう中で私たちは今年のクリスマスを迎えています。あなたが「インマヌエル」の主として、余裕を失い、混乱と疲れの中にある私たちのただ中に来てくださったことを感謝申し上げます。2000年前のクリスマスも、弱さや不安の中にあつたヨセフとマリアの夫婦に、天使が主の「恐れるな」というメッセージを届けてくださり、あなたが誕生されました。

まだまだ、この感染症の勢いは衰えを見せていませんが、私たちは、この「恐れるな」というあなたの励ましと、あなたが共に居られるという「インマヌエル」の希望を受けて、新しい年に向かって歩みたいと思っています。

ここにおられる入所者の方々、その保護者、関係者、そして職員の皆様の上に、あなたの豊かな祝福がありますように。

クリスマスの主、イエス・キリストの御名で祈ります。アーメン。



ご協力ありがとうございました

(2020年9月1日～11月30日) 敬称略

【法人】

一般献金

秋永侑美、安部聖子、安藤榮雄・徳子、飯田節子、江頭恵那、大坪夏江、岡本好枝、かおり園、西南学院高等学校母の会、(株)SYSKEN、(株)博防、鎌倉ツヤ子、加来徳子、栗田昌直、恵泉バプテスト教会女性会、元氣治療院、古池節子、古賀成、五斗美代子、後藤敏雄、堺太郎、下山由美枝、重症者ホームひさやま家族会、西南学院バプテスト教会姉妹会、第一保険(株)、田中節子・由美、塚原千鶴子、つくしんぼうの会、手作品売上げ、中島洋子・健一郎・春一、仲田京子、中村次郎、名越美智子、西加代子、日本バプテスト大阪教会、久山療育園保護者会、福岡聖書キリスト教会、福田さとみ、福田靖、藤中登、藤永嘉孝、豊前キリスト教会、船津丸泰、又野洋子、宮内千鶴子、室蘭バプテストキリスト教会、山口正夫、嘉久明子

(以上4, 469, 220円)

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、井手伸昌、久山療育園来久の会、久山療育園献金箱、増田康治、松本須美子、百田みゆき

(以上113, 784円)

【施設】

一般献金

井上清美、岩下祐慈、瓜生悦子、大原信幸、金丸尚美、匿名、木元克治、志満秀武・てい子、後藤美代、澤田久夫、新藤賢恵・佐知子、高島さつき、田上洋子、田中三千男・由美、(有)いまとう電器、鶴恵美、富田愛三郎、中尾清寿、花原章二、東倉忠勝、平野幸枝、米工房井上、松尾貴光、松尾勇二、松岡順之介、間部和子、村津俊博、森田緑、森永清治・亜希、山口吉昭

(以上630, 000円)

献品

猪城吉(タオル他)、ガールスカウト福岡県連盟はかた地区(タオル)、梶原由季子(絵本)、上鼻聖子(タオル他)、川崎バプテスト教会(エプロンタオル)、草場貴子(はがき)、草場孝幸(マスク)、栗ヶ沢バプテスト教会(石けん他)、元氣治療院(おもちゃ他)、古賀バプテスト教会(手作りゴミ箱)、鯨バプテスト教会女性会(タオル)、清水敦子(紙パンツ)、西南学院高等学校母の会(タオルエプロン)、常廣澄子(布)、富里キリスト教会女性会(エプロンタオル)、永藤七巳子(ケーク)、日本管財(株)(タリスマン)、原尚美(マスク他)、姫路城西キリスト教会女性会(エプロン)、平川成(手作り靴下他)、藤井房子(手作り壁飾り)、松尾勇一(紙オムツ他)、松竹雅子(フェイスマスク他)、瑞穂キリスト協会女性会(タオル)、三宅力(書籍)、宮崎信義(はがき)、安井洋子(エプロンタオル)、横溝愛子(タオル)、芳岡勇(ミシン他)、理容組合粕屋支部(タオル)

(以上1, 890円)

献金申込先

- 《郵送》
社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会
〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
久山療育園重症児者医療療育センター内
☎ (092) 976-2281 (代)
- 《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】
名義：バプテスト心身障害者を守る会
- 《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普 71888
名義：バプテスト心身障害児(者)を守る会
理事長 宮崎信義
- 《ホームページ》
当センターホームページから、クレジットカードによる寄付が可能となっています。「寄付金のお願い」より開いて下さい。また、郵便局振込用紙もパソコン画面よりダウンロードすることができますので御利用下さい。

個人、会社共に免税の対象になります。
メール：hisayama@hisayama-smid.jp

職員の異動

【退職】(2020/10/1～12/31)

▽大谷紗貴子(調理員) 10/31付
▽川口紅美子(療育員) 11/5付
▽山本喜久子(事務員) 11/17付
▽永田可奈未(療育員) 12/31付

メモ帳

【10月】

▽2日 臨時防災委員会、誕生会
▽6日 修学旅行、秋季オリエンテーション(1日目)
▽6日 秋季オリエンテーション(2日目)
▽13日 秋祭り(めぐみ棟)
▽14日 秋祭り(ひかり棟)
▽15日 災害対策訓練
▽27日 内部監査
▽28日～29日 職員検診

【11月】

▽7日 認定看護師研修会
▽13日 誕生会、機械浴槽入札
▽14日 認定看護師研修運営会議
▽16日 全体避難訓練
▽18日 公開講座
▽19日 託児所避難訓練
▽20日 保護者役員懇談会
▽24日 内部監査
▽27日 第3回理事会

【12月】

▽4日 誕生会、臨時感染対策委員会
▽7日 託児所避難訓練
▽10日 全国重症心身障害者施設研修会、臨時感染対策委員会
▽14日 胃がん検診、避難訓練
▽16日 入所クリスマス
▽17日 園クリスマス、認定看護師研修会
▽21日 久山町役場表敬訪問
▽22日 内部監査、キャロリング
▽24日 終業式

ボランティアだより

素敵なプレゼント

当センターでは例年、多数の学校・団体の方がボランティアとして活動してくださっています。その機会もなく、寂しく思っていたところ、クリスマスDVDが届きました。例年来園し、演奏してくれていた西南学院高校の吹奏楽部の皆さんからでした。DVDには素敵な演奏や合唱が入っていて、「私たちも頑張っています」というメッセージが込められているようでした。夏の頃、三上先生より「何か違う形でボランティア活動ができないか？」といううれしい提案がありました。それがこのような形となってクリスマスに届くなんて。皆さんの心温まる演奏と想いが、詰め込まれた素敵なプレゼントを本当にありがとうございました。

今までへの感謝、そしてこれからも・・・

2020年は、コロナ禍により活動の縮小（人数制限・時間短縮など）や活動中止を余儀なくされ、これまでにない形を模索することとなりました。そんな中、登録ボランティアの方の中には、それぞれのご都合により、退会の申し出をされる方も数名おられました。これまで長い間、たくさんのお働きや温かいお気持ちを久山療育園に注いでくださり、職員一同感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。直接感謝の気持ちを伝えることができないことは、大変心苦しく思います。今後は違った角度から久山療育園を見守っていただけたら幸いです。

（ボランティア委員会 陣内晶子）

歩 行 器

昨年2020年は年明けからコロナ感染症の発生で、世界中がその対応に追われま

した。久山療育園でも2月21日から臨時感染防止対策委員会を開き年末までに延べ14回の臨時委員会が開催され、その中で様々な感染防止対策が話し合われました。その結果、今日（1月13日）まで入所者からの感染者が出ていないことは感謝に堪えません。

コロナ禍では、園の業務や行事に、感染防止の立場から様々な規制がおこなわれました。最も警戒レベルが高まった期間は、保護者の面会中止やボランティア活動受け入れ中止等、部外者の立入規制を徹底しました。例年夏に行われていた「ミットレーベン・ワークネット」によるワークキャンプも中止になり、参加を楽しみにしていた多くの方々、特に小学生の子供さん方の落胆は大きかったと思います。

その中で、8月のある暑い日、「ミットレーベン・ネットワーク」から4、5名の大人のボランティア有志で園の草刈りの奉仕をさせていただきたい。その際、園舎のトイレを貸していただけないだろうかとの打診がありました。園としては部外者の立入規制の徹底から残念ながらお断りしました。尊いご奉仕の申し出でありましたが、このような対応を取らせていただきました。

「愛の手を」第24号（1979・8・1）による

と荒尾市小岱山に第一候補地として求められた6千坪の原野で第1回のワークキャンプが開かれたのが、1971年8月のことです。12人の参加で労働と学習の2泊3日でした。ちなみに当時の参加者を思い起こして見ると金子純雄牧師（平尾）、久野順子姉（平尾）、村田明美姉（長住）、諏訪田孝一兄（姪浜）、梅津達也兄（姪浜）、宮本要牧師（東福岡）、益永功兄（西戸崎）、金子敬神学生（東福岡）、叶昌全牧師（大牟田）、木原晴美姉（大牟田）、川野直人牧師（田隈）、松原孝宏兄（鳥栖）という顔ぶれであります。当時青年であった方々は今では70代、8代となられているのではないのでしょうか。それから1996年と2020年に感染対策上中止した2回を除き毎年、園の草刈りや大掃除の奉仕が続けられてきました。園創立以前から多くの方々の祈りとご奉仕によって、園は守られてきています。

9月中旬からは保護者の短時間面会とボランティア活動受け入れの再開が始まりましたが、12月上旬から感染の第3波が発生し、残念ながら再び中止となっています。

今年もいまだにコロナ禍は続いています。一日でも早く収束するように、利用者の方々の命が守られますようにと日々祈りつつ業務に当たっています。

（H・N）

